

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*42社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2020/3月	6月	9月	12月	2021/3月	6月	2021/9月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	15	▲14	▲5	2	5	(▲5) 5	▲9
うち製造業	33	0	0	11	38	(25) 38	13
非製造業	9	▲17	▲6	0	▲2	(▲12) ▲3	▲15
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲15	▲30	▲19	▲20	▲13	(▲20) ▲15	▲23
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	▲3	▲7	▲4	▲3	▲13	▲3	
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲5	5	3	▲3	5	(5) 3	0
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	▲46	▲34	▲36	▲34	▲30	(▲40) ▲25	▲42
資金繰り < 楽である - 苦しい >	5	0	14	12	15	15	
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	36	33	33	31	33	30	
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	2	▲20	▲18	▲2	▲5	(▲2) 3	3
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲5	▲10	▲3	3	0	(5) 3	10
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	22	13	20	15	22	(30) 38	38

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度計画			
			前期		下期	
売上高	-0.5	-6.5 < +1.2 >	-0.8 < +0.9 >	+3.4 < +0.5 >	-4.4 < +1.4 >	
経常利益	-2.6	-12.0 < +4.5 >	-18.5 < +5.1 >	-33.6 < -12.0 >	-4.1 < +20.5 >	
当期純利益	+21.4	-87.8 < -83.6 >	7.3倍 < +26.7 >	+31.6 < +26.8 >	NA < +26.7 >	
設備投資額	+60.8	-8.9 < +20.3 >	-56.3 < -34.9 >			

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2021年6月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 42 社（製造業 8 社、非製造業 34 社）
- 回答率 97.6%（有効回答社数 41 社）
- 回答期間：2021年5月27日～6月30日

### 1. 業況判断 DI

- 6月の業況判断 DI（全産業ベース、DI：%ポイント<以下同じ>）は、+5と前回3月調査比横這い（前回+5、前回比±0）。
  - 製造業の業況判断 DI は、+38と前回調査比横這い（前回+38、前回比±0）。
  - 非製造業の業況判断 DI は、▲3と運輸が改善したものの、建設、卸・小売、宿泊・飲食サービスが悪化したことから、前回調査比悪化した（前回▲2、前回比▲1）。
- 先行きの業況判断 DI は、悪化を見込み、マイナス転化するとの予測（2021年9月までの予測：+5⇒▲9）。
  - 製造業は、悪化の見込み（+38⇒+13）。
  - 非製造業は、個人消費関連、宿泊・飲食サービスが改善を見込むものの、建設、運輸が悪化を見込むことから、悪化する見込み（▲3⇒▲15）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超過－供給超過>」（▲13⇒▲15）は、個人消費関連が供給超幅を縮小したものの、建設、宿泊・飲食サービスが供給超幅を拡大したことから、全体では供給超幅が拡大した。先行きは、供給超幅が拡大する見通し（⇒▲23）。「製商品在庫水準判断 DI<過大－不足>」（▲13⇒▲3）は、製造業、建設が不足超過を解消したことから、全体では不足超幅が縮小した。
- 「生産・営業用設備判断 DI」<過剰－不足>」（+5⇒+3）は、個人消費関連が過剰超過を解消したことから、全体では過剰超幅が縮小した。先行きは、建設が不足超過に転化するため、全体では過剰超過が解消する見通し（⇒±0）。
- 「雇人員判断 DI<過剰－不足>」（▲30⇒▲25）は、卸・小売が不足超に転

化したものの、対事業所サービスが過剰超に転化したほか、建設、運輸で不足超幅が縮小したため、全体でも不足超幅が縮小した。先行きは、対事業所サービス、個人消費関連が過剰超過を解消するほか、宿泊・飲食サービスが不足超過に転化し、建設で不足超幅が拡大するため、全体でも不足超幅が拡大する見通し（⇒▲42）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、「資金繰り判断 DI<楽であるー苦しい>」（+15⇒+15）は、横這い。「金融機関の貸出態度判断 DI<緩いー厳しい>」（+33⇒+30）は、「緩い」超が前回調査比で縮小したほか、「借入金利水準判断 DI<上昇ー低下>」（▲5⇒+3）は、「低下」との回答先が減少し、「上昇」との回答先が増加したことから、上昇超過に転化した。
- 「仕入価格判断 DI<上昇ー下落>」（+22⇒+38）は、製造業が上昇超幅を拡大したほか、卸・小売が上昇超に転化し、建設で上昇超幅が拡大したため、全体では上昇超幅が拡大した。先行きは、運輸が上昇超幅を縮小するものの、製造業、建設が上昇超幅を拡大するため、全体では横這いの見通し（⇒+38）。  
「販売価格判断 DI<上昇ー下落>」（±0⇒+3）は、宿泊・飲食サービスが上昇超過を解消したものの、製造業が上昇超過に転化したほか、建設が上昇超幅を拡大したことから、全体では上昇超過に転化した。先行きは、個人消費関連が下落超過を解消するほか、宿泊・飲食サービスが上昇超過に転化することから、全体では上昇超幅を拡大する見通し（⇒+10）。

### 3. 事業計画

- 2020 年度の実績は、売上高は前年度比▲6.5%、経常利益は同▲12.0%、当期純利益は同▲87.8%で着地。設備投資額は同▲8.9%の減少となった。売上高、経常利益、設備投資額は前回調査比で上方修正された一方、当期純利益は大幅に下方修正された。
- 2021 年度の計画は、売上高は前年度比▲0.8%、経常利益は同▲18.5%、当期純利益は同 7.3 倍、設備投資額は同▲56.3%となっている。設備投資額は前回調査比で下方修正された一方、売上高、経常利益、当期純利益は上方修正された。

以 上

## 2021年6月短観・調査結果

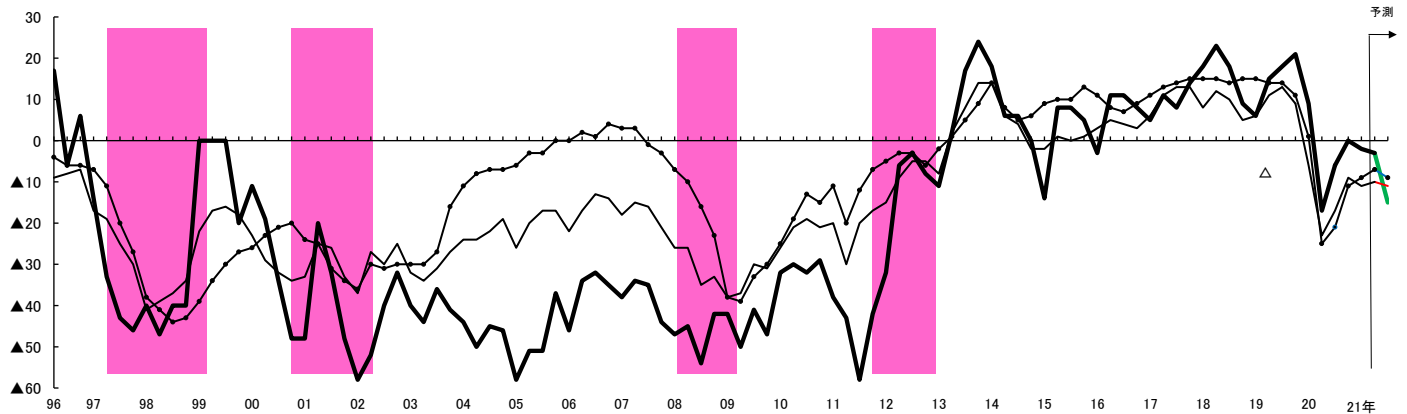
業況判断D. I. (「良い」－「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注)

道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

全国、北海道は2017/9月以前は調査対象企業見直し前の旧ベース、2017/12月以降は見直し後の新ベース。

■ シャドーは景気後退期（内閣府調べ）、△は直近（2018年10月）の景気の山。